

平成27年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	トップスポーツコーチング演習		担当教員	南條充寿／阿部 肇			
領域水準コード	D3	単位数	2	履修方法	選択必修	授業の方法	演習
授業の概要							
①指定されたトップレベルのコーチング現場へ指導者として体験的参加する機会を提供し、(受講者が)競技者側のニーズや課題などについて学んだことをテーマに、コーチングの本質や最新の情報を論述する。②専門分野と異なった競技のコーチング体験機会を提供し、(受講者が)自らのコーチング能力向上に必要な考え方や情報、方法等を分析的に解説する。(学習者同士のディスカッションの中から自ら発見することを重要視する)							
授業の一般目標							
トップレベルのコーチングは高度化し、複雑化している。ここでは、社会のニーズや公共性、公益性を求められるトップコーチングのあり方やその方法等を、実際のトップコーチおよびスタッフから体験的に学び取る。							
授業の到達目標							
■ 認知的領域	現場コーチングを行なうにあたっての自己の課題を知り、併せてトップコーチングに不可欠な指導者の考え方や心構え、専門性などを理解する						
■ 情意的領域	トップコーチングのあり方や現場の課題など、体験をとおしてその本質と対峙する						
■ 技能表現的領域	競技者やチームの目的達成のために不可欠なトップコーチングの基礎スキルを体験し、その方法やトレーニング法について知る						
授業計画(全体)							
授業は、トップコーチの活動現場において実施することを主体とする。具体的には、講師(トップコーチ)から自らのコーチング哲学や方針や指導上の留意点、課題などのプレゼンテーション、講師とのディスカッションの後に、観察視点や体験学習のポイントを明らかにして現場学習に臨む。現場学習の後は、講師への質疑応答(振り返り)などを行なう。							
授業計画(詳細)							
授業テーマとその内容							
<p>1.オリエンテーション/ガイダンス ……………【授業回数1回】</p> <p>2.解説:トップコーチング現場の観察視点 ……………【授業回数1回】</p> <p>3.チーム競技トップコーチング(ボート競技現場から学ぶ) ……【授業回数4回】</p> <p>4.球技系競技トップコーチング(バスケット競技現場から学ぶ) …【授業回数4回】</p> <p>5.武道系トップコーチング(柔道競技現場から学ぶ) ……………【授業回数4回】</p> <p>6.評価:プレゼンテーション/ディスカッション/口頭試問 ……………【授業回数2回】</p> <p>①コーチの指導理念、行われるトレーニングのポイント、コーチングのポイント</p> <p>②観察 ポイント:コーチ、チーム、個人、施設、サポート、取材メディアなどを観察 ・コーチ(指導方針、理念 など) ・チーム(目標、運営方法 など) ・トレーニング(年間計画、現在の目標、観察日に行われている内容と位置づけ</p> <p>③振り返り:コーチを囲んでディスカッション、Q&A</p> <p>④レポート</p> <p style="text-align: center;">担当: 3コマ/人</p>							
授業外学習の指示等							
現場学習にあたり、それぞれの講師の活動に関する情報収集などを十分に行ない、観察視点や学習のポイントを明確にしておく。							
成績評価方法(方針)							
成績評価方法(詳細)						履修上の注意(受講に当たって院生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	以下の視点を念頭において授業に参加すること。 ・物事すべて解く鍵は「みる(観察)」することから始まる。 ・学ぶことを忘れて指導することも忘れてはならない。 ・教育の価値は事実をすることではなく、価値を知ることである。		
定期試験(期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○	○	40			
授業外のレポート							
ポートフォリオ	○	○	○	50			
出席				10			
その他							
関連科目	トップスポーツマネジメント特講						
教科書	「知的コーチングのすすめ」. 勝田隆著. 大修館書店			参考書			
連絡先	阿部 肇研究室: A406、td-abe@sendai-u.ac.jp						